

「第15回全国障害者スポーツ大会 紀の國和歌山大会」に出場して

石川県視覚障害者サウンドテーブルテニスクラブ 岡田勝夫

今回、お陰様で最高の結果を残せる事が出来て大満足の大会でした。ちなみに偏食無しの私の食事はおいに進み、西谷監督（石川県 STT クラブレディス公認審判員）があきれるくらいに食べて、見事に2キロも体重が増えました。役員の方々や西谷監督には、誠に親身のお世話いただき、ありがとうございました。

10/22（木）私たち（石川県選手団）を和歌山県民が心から歓迎してくれました。そのおだやかで親切なおもてなしは、まるで能登の山里の雰囲気でした。和歌山県立和歌山盲学校の生徒たちから配布された点字資料には、「和歌山に来てくださりありがとうございます。和歌山の海の幸・山の幸を味わって帰って下さればと思います。一粒300円の梅干しも有りますよ、大会でのご健闘をお祈りします」「自分を信じれば必ず夢が叶います。頑張ってください」。こんな心強い応援メッセージを2通いただきました。

6月下旬、電話で「石川県代表として選抜されましたが、それを受けますか…」との問い合わせが小松市役所から届いた。私には夢のような吉報で、早速、盲導犬のアビーに「おい、長旅になるが大丈夫かな？どうする…」と相談すると、私の傍で喜んでシッポをグルリンと大きく振り回してゴーサインを出してくれました。それで参加を決意した次第です。

10/22、石川県庁前では秋晴のもと厳粛なる選手と役員の結団式が行われました。副知事の激励で選手一同はあらためてメダル獲得を心に誓ったと思います。その後、選手・役員40名とプラス盲導犬アビーは、大型バスで一路和歌山へ向いました。

10/24（土）の開会式はすっきりと晴れ上がり、県旗を盲導犬アビーのハーネスにテープで留めて貰い、貴賓席前ではそれを大きく振って堂々と行進しました。皇太子殿下の励ましのお言葉を直接拝聴すると「平和な日本に生まれて良かったな」と感謝の涙がでてきました。

試合は、11点5セットマッチで行われました。1日目の試合では、相手のウィークポイントが直ぐに掴む事ができて、3対0で勝利でした。自分でも不思議なくらい冷静でした。

2日目は、朝から気持ちが浮足立ち注意散漫、じゃんけんで勝ったのに何故かコートを選択してしまった。その上、1セットは2点差で落とし、2セット目は4点差でリードしていたのに、自分のミスで、ホールディング（ラケットと台で球を挟み、音がでない）で3ポイントを連取されパニック状態であった。その時、会場に響くほどの「タイム！」という西谷監督の大声。

「力んでるよ、慌てないでゆっくり！まずは水を飲みなさい…」と背中を押された。そしてその時、盲学校生からいただいた「励みの点字：自分を信じれば…」の文言も思い出し、緊張が「ストーン」と腑に落ちた。私は、西谷監督の的確なアドバイスに救われました。

それからは3セットを連取して、結果「金メダル」を取ることができました。私は、アビーのシッポをギュッと握り、その首に金メダルをかけて喜びを分かち合っていた。

10/27（土）の早朝、ホテルでお世話になった現地サポーターと涙のお別れの後、金沢へ向かった。解団式はバス中で行った（県庁後では夜遅くなってしまうから）が、各自、悲喜（交交）こもごものスピーチを発表し、終わりの副団長からのご挨拶に感無量の涙を漏らし、私は大会の幕を閉じた。